NIE実践報告

1．タイトル：みんなで学校新聞を作ろう

2．学校名

和歌山県広川町立津木小学校

3．実践者名（代表者名）

竹中信義

4．学年

第1・2・3・4・5・6学年（全学年）

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

全教科（全教育活動を通して）　47人（全校児童）

6．単元（本時の学習課題）名

「みんなで学校新聞を作ろう」　新聞名「津木小エネルギー(元気)いっぱい新聞」

7．目標(狙い)

学校での教育活動を、児童が新聞記者となり取材し記事にし学校新聞を作ることで、国語力の向上を図り、学校への帰属意識を高める。この活動を地域に発信することで、学校への理解と信頼を高める。

8．評価の視点

情報を新聞記事にするには、5W1Hにまとめることが必要である。この力が問題解決力へとつながる。根拠を明確にした、論理的な記事を書くことができたかを評価の視点とする。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「新聞記者になろう」［国語・総合的な学習の時間：各学年3時間］
「津木小エネルギー(元気)いっぱい新聞」を作ろう　［国語・総合的な学習の時間：各学年20時間］計23時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①月1回の「エネルギー実験教室」の記事を書く。
②新聞記者から新聞作りの方法の講義を聞き、新聞記事の書き方を学ぶ。
③日々の学校の生活や行事について、記事を書く。
④本校校区に建設中の風力発電所について調べ、記事を書く。
⑤写真や見出し、レイアウト等を考えながら学校新聞を作り、地域に配布する。

(留意点)
・各社の新聞を参考にさせながら、記事の提示方法や新聞写真の活用、見出しの工夫等を考えさせる。
・小学生新聞を読むことを日課にしながら、新聞の面白さを体験する。
・家庭や地域で新聞を話題にする。
・大きな行事(修学旅行、文化祭、運動会等)では、分担をきめて記事を書く。
・書くことで考える力を育てる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

児童は遭遇した出来事を記事にすることで、新聞作りは大変だが力になることを学んだ。自分の書いた記事や身近な出来事の載った新聞を食い入るように見入っていた。児童の新聞への興味・関心が高まり、学ぶことの大事さや面白さが実感する事ができ、加えて地域への発信で充実感・達成感も十分味わうことができた。

12．成果と課題

学校新聞作りは、各学年の児童の発達段階や興味・関心に応じて取り組め、記事を集めることができる。そして、児童の記事が学校新聞という形になるので、子どもたちは意欲をもって取り組むことができた。記事は日常の学校生活に豊富にあり、学校の特長ある取り組みや運動会などの行事もある。

漢字学習や書くことが苦手な児童にとっては、記事を書くことが大きな負担になる。国語教育や読書教育を充実させる中で、学校新聞作りだけでなく、いろんなNIEに取り組んで行きたい。